

「横滑り」社外取締役の特徴と考察 —自社の社外監査役を社外取締役として選任する要因は何か—

杉浦 康之 CMA

目 次

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. はじめに | 4. 横滑り社外取締役選任の動機は何か |
| 2. 横滑り社外取締役の状況 | 5. 考察 |
| 3. 社外取締役の独立性について | |

コーポレートガバナンス・コード導入以降、自社の社外監査役を社外取締役として選任する企業が3割に上る。本稿では、このような横滑り社外取締役が選任される要因について分析した。その結果、経営者が高齢であるときやコード導入以前に社外取締役が2名未満のときに、横滑り社外取締役を選任する傾向があることが確認された。これは、同取締役の選任が経営者のエンタレジメントや機会費用の安さの影響を受けていることを示唆している。本稿は本文と補論で構成されており、詳細を補論で述べている部分については本文中に注が付けられている。

1. はじめに

2015年6月に適用されたコーポレートガバナンス・コードにより、多くの上場企業はコーポレートガバナンスの改革に取り組んでいる。同コードの中でも大きな変革の一つに、原則4-8の「独立社外取締役の選任を少なくとも2名以上することが挙げられる。

一般的に、社外取締役は、企業や経営陣との利益相反のない「独立」した立場からの経営などに

対する監視や助言が期待されている。このときの独立性基準は取引所等が定めており、企業はこの基準に基づき、独立社外取締役を指名する。こうした独立性の高い社外取締役らで構成された取締役会により、経営者の意思決定を監督することで、経営者の暴走を抑制し、企業価値向上に寄与すると考えられているが、これまでの先行研究では、独立社外取締役と企業価値の関係性を示せていない。

その原因の一つに、「独立性」の定義に対する



杉浦 康之 (すぎうら やすゆき)

日興リサーチセンター社会システム研究所ESG投資調査室主任研究員。東京理科大学理学部応用数学科卒業。一橋大学大学院国際企業戦略研究科修了(MBA in Finance)。2001年、現・SMBC日興証券入社、日興リサーチセンターに出向。投資工学研究所を経て、05年より現職。ESGを用いた定量分析、企業向けのESG情報開示に関する支援サービス、コーポレートガバナンス評価に従事。